広報

こゆるぎ

大磯中学校 PTA

2025 12 vol.202

磯中って変わってる？

特集

「磯中って変わってる？」

第 52 回文化祭

PTA グループ活動報告

PTA 本部より

謝辞　編集後記

発行　大磯中学校 PTA

令和 7 年 12 月発行

PTA 会報第 202 号

※表紙写真は、服装の自由化前の生徒手帳に載っていた、大磯中学校「生徒心得・服装及び頭髪について」です。

ここから読み進むページには、大磯中学校を卒業していった先輩たちや支え続けた先生方の足跡が綴られています。
たくさんの取材で見えてきたのは、規則や慣習を「当たり前」とせず、違和感や疑問を粘り強く解決していく姿勢でした。

全国的にはまだまだ厳しい校則で生徒を管理する中学校が多いですが、近年「ブラック校則」の見直しが国レベルで進められるようになり、私服で登校できる「カジュアルデー」の導入など、学校で生徒の主体性を育てる意識が広がりつつあります。

磯中では40年ほど前から、生徒自身によってそれらの見直しが行われてきました。先生と保護者も生徒の意見に真摯に耳を傾け、一緒にさまざまな自由化を実現しました。そこには、学年や立場関係なく皆が意見を交わし合い、生徒自身が問題を解決していこうとする文化がありました。

しかし、意見を交わし合う場だった生徒総会がコロナ禍で一旦途切れ、改革期を知る先生方も退職し、この文化の継承が以前より難しくなっています。同時に、「自由だから何をやってもいい」という誤解や、「やはり校則を設けるべきだ」という厳しい意見も聞かれるようになりました。

生徒自身が時計を見て行動できるとして撤廃したはずだったチャイムが、日に2回鳴るようになり、昨年度から3回に増えました。磯中の皆さんはそのことに気づいていますか？

生徒が主体的に考え行動するのか、それとも学校に管理してもらうのか、改めて考える良い機会なのかもしれません。

先輩たちの歩みを参考にしながら、これからの磯中がどんな学校であってほしいか、一緒に考えてみませんか？

大磯中学校ってだいぶ変わってる…

服装自由

チャイムなし

※現在は３回あり

校則７つ（P8）だけ

校則が少ないから、生徒が主体的に補い行動する。
それが難しいなら、校則を増やして先生に管理してもらう。
磯中のみんなはどっちを選ぶ？
さあ、今、考えよう。

目次 …… P03
変わってない頃の磯中は …… P04
服装の自由化までの年表 …… P06
改革の７年間 前半（1986-1989） …… P08
改革の７年間 後半（1990-1993） …… P10
改革期の生徒たち。 …… P12
『改革期の生徒たち』を伝える授業。 …… P13
ずっと、誰一人取り残さない磯中の教育 …… P14
自由な校風の源泉は職員室にある！のか！？ …… P16
磯中の生徒会 …… P18
磯中の文化祭 …… P19

第52回文化祭 …… P20
PTAグループ活動報告 …… P24

変わってない頃の磯中は…

制服もチャイムも校則も、他の学校と同じようにあった頃を見てみると…

服装・頭髪

1993年に服装が自由化されるまで、大磯中学校は他校と同じように制服を着用し、靴や靴下も細かく指定されていました。

また、週番と呼ばれる生徒が校門前にずらりと並び登校する生徒の服装チェックをするなど、今では考えられないような制度がありました。

中学校に入学して初登校すると校門前に「週番」の生徒がずらっと並んで服装チェックしていて、これは恐ろしいところに来てしまった、と愕然とした。（1987年卒業生）

服装

1985年当時の校則（一部抜粋）

・登校靴…男女とも白の運動靴とする。
・靴下…　男子：白、紺もしくは黒色とする。
　女子：ソックスは白、ストッキングは黒か肌色。ハイソックスは冬期間(11-3月)のみ着用してもよい。
・制服…　女子：規定の紺色制服でジャンパースカートのひだは20から24。前後中心は箱ひだとする。
　男子：詰襟学生服の上下。学校規定のボタンをつける。

などなど…

頭髪

1985年当時の校則（一部抜粋）

男子
・前髪は、まゆにかからない程度。
・横は、耳にかぶらない程度。
・後ろは、襟にかからない程度。
・質素であること。

女子
・なるべくショートカットにする。
・前髪は、まゆにかからない程度とし、長い場合は、ピンでとめる。
・後ろは、肩にかからない程度とし、長い場合は、束ねておく。
※男女共パーマは厳禁する。

などなど…

こんなことまで校則で決められていた！

学校内外の生活

1985年当時の校則（一部抜粋）

・教室の戸は、静かにあけたてをする。
・温度・通風の強弱を考えて窓をあける。
・授業中は、熱心に学習する。
・校舎内でふざけたり、さわいだり、駆けたりしない。
・昼休みには、校庭に出る。
・低級な読物や、歌謡や、危険な遊びをしない。
・家庭生活は家事、学習等の計画を立てて予習・復習を怠らないようにする。
・健全な娯楽（遊び）を考え、隣人に迷惑をかけるような行動はしない。

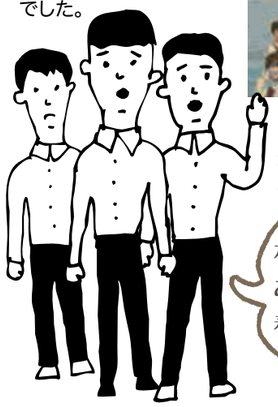
などなど…

実際はそこまで厳格に指導されていなかったです。（1985年卒業生）

指定水着

男女とも濃紺のピッタリした指定水着がありました。

男子のスクール水着はブリーフ型の海水パンツでした。



そんな、校則で縛られた磯中でしたが…生徒のひとつの不満が、学校を変えて行ったのです。

水泳の授業の「海パン」、あんな恥ずかしいもの着たくないんだけど…

オレもイヤだから水泳やすむー

運動会

磯中名物、大縄跳びはこの当時から！ でも男子のみで、女子の縄跳びの写真はなく、ダンス種目がありました。他に今と違うのは、組み立て体操、人文字など、来客者に見せることを目的とした競技があったことです。最後はフォークダンスで盛り上がりました。

この当時から、人気の吹奏楽の演奏はありました。

このページの写真は絵画調に加工しています
1985年卒業アルバムより

修学旅行

修学旅行ももちろん制服。部屋着&パジャマは体操服と決められていました。そしてよく見ると、集合写真は全部男女別！一緒に映る場合でもきっちり男女分かれていました。

部屋着&パジャマは体操服！

集合写真は男女別々！

文化祭

第1回文化祭が開催されたのは1974年。その年から発足した実行委員会が原案作りから運営まで一貫して行いました。文化祭は2日間にわたって地域に公開され、来場者は時に3,000人を超えるほど盛大だったそう。

中学校の文化祭で一般公開し、出し物に飲食があるのは今も昔もかなり珍しいこと。校則が厳しかったこの時代にも、常識にとらわれず生徒の主体性を重んじる校風がすでにあったのです。（この後の改革が進む種はここにあるのかも！）

体罰

前髪の長さ違反があると、みんなの前で前髪を切られた。（1986年卒業生）

1970年代になると生徒による校内暴力が全国的に問題になってきました。磯中でも校内での喫煙や飲酒などもあったそうです。そうした時代には、先生の体罰はよくあることでした。磯中でも、悪いことをした生徒を並ばせてビンタ、校則違反の長さの前髪を皆の前で先生が切る、など日常的に行われていました。

当時のことを振り返って、生徒の前髪を切ってしまったことをずっと後悔している、と告白してくれた先生もいます。体罰はされた側はもちろん、した側にも傷を残しました。

昭和の校則、ウケる！
…と笑いますか？

実は このような校則がある学校 は令和の今もまだ「普通に」あります。それが、磯中が「変わってる」と言われる理由です（つまり先進的？！）。

この際、他校の校則チェック！

令和６年度東京都区立Ｈ中学校校則

◆教室の移動の制限　他学年のフロアは横切らない。
（例）１年生が音楽室へ行く場合→2階または1階の廊下を通る。2・3年生が○○館へ行く場合→西階段を通る。

◆頭髪　女子…前髪は目にかからない長さとし、後髪は肩を超える長さになったら、黒、紺、茶のゴム紐で結びサイドもきちんと止める。流行を追う髪型はしない。頭髪を整える際、サイドのみ極端に刈り上げない。短い部分と長い部分の差を激しくしない。バランスの整った髪型にする。

令和７年度埼玉県市立Ｓ中学校きまり（一部抜粋）

◆礼儀について　校内の挨拶は「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」

◆防寒具
・カイロ（使い捨てを含め）については、使用法さえ間違えなければ持参可とする。
・インナーは白、黒、紺、グレーの単色とし、外から見えないようにする。
・授業中のひざ掛けの使用を認める。ジャージやコートなどで代用することは認めない。

◆服装違反（異装）の場合　その場で直せない場合→複数名で別室指導を行い、最大限直してくること、これ以上いじらないことを約束させる。保護者への連絡を行う。場合によっては、一度下校させ、後ほど再登校させる。

磯中から遅れること35年！

不合理な校則に対して2022年、国は向き合い始めた！

文部科学省は「生徒指導提要」の改定で、不合理な校則の見直しを促し、「校則を守らせることばかりにこだわることなく、何のために設けたきまりであるのか、教職員がその背景や理由についても理解しつつ、児童生徒が自分事としてその意味を理解して自主的に校則を守るように指導していくことが重要」とし、生徒が「きまりの意義を理解し、主体的に校則を遵守するようになるために、制定した背景等についても示す」こと、「その意義を適切に説明できないような校則については、改めて学校の教育目的に照らして適切な内容か、現状に合う内容に変更する必要がないか、また、本当に必要なものか、絶えず見直しを行うこと」が適切、としています。

服装の自由化までの年表

生徒心得（校則）改正の歩み

1974　生徒会により実行委員会が発足。
文化祭実行委員会による第一回文化祭開催

運動会の運営が生徒の手に委ねられるようになり生徒会も本来の姿が追求されるようになった時代（創立30周年記念誌より）。文化祭も目的、目標設定、準備、運営、全てにわたって生徒が主体的に取り組んだ。2日間にわたって開催されて地域に一般公開され、多い年は3,000人の来場があったという。

1985　神奈川県教育員会同和教育研究校に指定
→生徒が決めたことを尊重
研究主題「人権感覚を育てる教育を目指して　お互いに認め合い励まし合う主体的な仲間づくり」

指定校になったことで、教職員の人権意識が高まり、今まで問答無用で生徒に強いてきたことを改めて見直す機会となった。

1986.7　学校水泳指定水着の自由化（P4,8 参照）

1987.3　「生徒心得は、生徒会によって改正できる」
生徒総会で承認

これによって戸の開け閉めから生活態度に至るまで80項目もあったさまざまな規定（P4～5）を生徒が望めば変えることができるようになった。これは大きな転期となった。

1988.5　「生徒心得審議会」結成
（各クラス1名、本部役員4名、週番委員長1名、顧問3名）

10　登校靴の自由化
（運動靴タイプなら白でなくてもよい）

1989.3　新「生徒心得」生徒総会で承認
【旧80項目→新7項目】

新生徒心得はP8

服装・頭髪に関する規定の緩和
例；ワイシャツ・ブラウスは開襟シャツ・ボタンダウン可
頭髪・靴下・ピン・ゴム等の規定緩和

「生徒心得審議会」解散→学校議会で継続審議

4　ノーチャイム実施◆

（教職員の提案）生徒が時計を見て主体的に行動できるように、また近隣への騒音防止のため。

11　通学カバンの自由化
（学校指定のバッグでなくても良い）

1990.4　男女混合名簿実施◆

1999年の男女共同参画社会基本法制定以降、「男子が先」の刷り込みに配慮すべきとして多くの学校で導入が進んだ。東京都では、2001年より導入。日本の自治体で最初に実施したのは大阪府堺市教育委員会で法制定より9年早い1990年4月と言われている※1。実は磯中はこの堺市と同年同月に導入されている。

5　登校は制服・ジャージのどちらでもよい◆
（制服を必ず着用するのは入学式・卒業式のみ）
服装頭髪に関する様々な自由化（14項目）◆

前髪の長さ、ピン、ゴムの色、「女子はなるべくショートカット」など頭髪に関する細かい規制があった。(P10)

1991.1　防寒着着用の自由化

3月の生徒総会では厳寒の時期に間に合わないため、学校議会で改正、即実施となった。

3　名札の廃止◆

4　修学旅行時の上着の自由化

7　Tシャツ着用の自由化

11　「制服についての話し合い」スタート

12　生徒会本部により全校生徒に制服についてのアンケート実施

（教職員の提案）生徒の人権を考え、教職員が名前を覚える努力をしていこう、生徒が望んでいない名札の着用を教職員側の都合だけで強要するのは止めよう、ということから。

◆：教職員側から改訂を提案された規約

1992.3　卒業式で卒業生の呼名に敬称をつけることを職員会議で確認◆
卒業する生徒会本部が在校生に向けて制服自由化のための活動継続の「メッセージ」を読み上げる

P10「(卒業する）生徒会本部から在校生へ 活動継続のメッセージ文」

4　「PTA制服検討委員会」発足
（PTA役員11名、校長、教頭、生徒指導担当教員、生徒会指導部長）

5　「大磯中学校生徒会は制服の自由化を目指す」
を生徒総会で決議

92年度の生徒会本部役員は「修学旅行での服装の自由化」「制服の自由化実現」を公約として、役員選挙で当選した生徒たち。4月からすぐ制服について取り組み、4月の学校議会と5月の生徒総会の話し合いで『大磯中学生徒会は「制服の自由化」を目指す』という決議がなされた。

同時に保護者や教職員からなる「制服検討委員会」に以下のアピール文（下記・一部抜粋）を、9月の私服登校試行後には「活動継続のアピール文」(P11) を提出した。

> 制服検討委員会のみなさまへ
> 　みんなと違うからいけないという時代は、もう終わりました。今は個性尊重の時代です。人と違った好み、意見、考え方を持っていても、何もおかしい事はないと思います…中略
> 　前回の学校議会では、あまりの挙手の多さに議長が閉口してしまうほどでした。過去、私達が磯中にいた期間の中でも、これほどの白熱ぶりは見たことがありません。今日の生徒総会での採決の結果、全校生徒が自由化に賛成しました。私達生徒会では、今まで何度も話し合ってきました。さらに、これからも全校生徒で話し合い、取り組んでいくつもりです。
> 　制服検討委員会のみなさまも、私達の熱意と考えをご理解下さい。
> 大磯中学校生徒一同

6　修学旅行時の服装完全自由化（自主選択制）
全保護者アンケート実施（検討委員会）

7　PTA総会で「私服登校の試行については生徒の良識ある判断に任せよう」との結論となる
職員会議でも同様の結論となった

9　私服登校の試行を実施（1カ月間）
全校生徒に私服登校試行のアンケート実施
開校時から制服のない横浜・藤沢の 2 中学校を視察（検討委員会）
保護者による「制服についての討論会」を開催

10　保護者に私服登校試行のアンケート実施

11　「制服の自由化について」の説明会・討論会実施
保護者最終アンケート実施（検討委員会）

12　「制服の自由化」臨時生徒総会で承認
3学期から実施を決定

1993.1　1月8日より**「制服の自由化」実施**

3　新「生徒心得」を決定し生徒手帳に記載

生徒手帳の生徒心得欄は、1988年から審議が始まって以降、改正中として長らく白紙となっていた。

以後「時計持参の自由化」「飲み物に関する改正」など検討・改正は続いていった。

※1：「男女混合出席簿は堺市から始まった」日本大学大学院総合社会情報研究科　山本（山口）典子著　　日本大学大学院総合社会情報研究科紀要　No.17, 141-148 (2016)

始まりは一通の投書

改革の７年間（前半）1986-1989

1986

4月　1986年４月、投書箱の一通の投書が生徒会で取り上げられた。それは「雨の日に運動部が校内で練習して危ないからどうにかしてほしい」というもの。この年の生徒会本部はこれを改善※2したことで、「自分たちで学校を変えられる」と自信を得たという。やがて「生徒心得」の撤廃がこの年の生徒会の大きな目標となっていった。※3

6月　男子生徒に不評だった、「海パン（海水パンツ＝男子の指定水着）」についての学年議会

学校議会で検討

生徒総会で議決

7月　直後の水泳授業から **水着自由化実施！**

「海パン」が改革のはじまり

６月の３年学年議会では本部役員とクラス委員の他、少なくとも６名の先生が参加して、海水パンツについて話し合われた。参加者生徒全員が今の海パン強制を、「変えたほうがいい」と回答し、理由は「授業のためだけに買うのはもったいない（学校以外ではトランクス型）」「恥ずかしい」「履きたくなくて水泳授業を欠席する人がいる」「生徒のほとんどが嫌がっている、生徒が水泳をするんだから強制される必要ない」など。それに対して先生や生徒会長から「もったいないというのは真意ではないはず、本当は恥ずかしいのでは？」「何か引っ掛かる、雑談で良いから一人ずつ変えたい理由を」など本音の話し合いを３時間にもわたって行っている。（「３年学年議会全記録 S61.6.10（火）」より）

改革が始まった当時の磯中の雰囲気※4

大磯中学校は1985年から3年間、神奈川県教育委員会より同和教育※5研究校の指定を受けた。大磯町教育委員会はこれを機に町を挙げて差別と偏見のない明るい町づくりを進める体制を整え、その中で「差別をしない、差別を許さない明るい学校づくり」の研究に熱心に取り組み、教員の研究会、研究視察などは3年間で172回におよんだ。

次第に教職員は、生徒と共に規則を見直し「自由化していくことが必要」と考えるようになっていった。研究2年目の1986年は、全ての教育活動の中に人権教育の視点を必ず位置付け、意識的・重点的に指導するよう努めることとした。

「スクール水着を強制しないで」と言う要望が出されたのはまさにそのような中で、だった。

1987

3月　生徒会規約改正

「生徒心得は、生徒会によって改正できる」

これによって生徒が生徒心得を変えられるようになった！

生徒たちの手により1989年に改正された 新「生徒心得」

〈前文〉
この生徒心得は、私達の手によって平成元年3月8日に作られました。以前より項目が大変少なくなっていますが、それは、私達の自覚によって補っていこうということです。私達の手で、よりよい学校を作っていきましょう。また、問題点があれば、見直し改正していきましょう。

生徒心得

○互いに相手のことを思いやって生活する
○学級の自治につとめる
●時間は有意義に使う
●環境美化につとめる
●公共物を大切にする
●学校行事には進んで参加する
●校外でも大磯中の生徒であるという自覚を持ち行動する

これだけ！
校則（生徒心得）は7項目に！
強制されるものではなく
自分の意志で実行するものとして
「自分が ～する」という
文体になっている。

1988

5月　「生徒心得審議会」結成

10月　登校靴の一部自由化

生徒の人権を尊重すること、学校生活のさまざまな面で生徒の意思を尊重することが、磯中教師の共通認識となった。
こゆるぎ107号/生徒会指導部芦川先生

1989

みんなで作った
新「生徒心得」完成！

3月　新「生徒心得」生徒総会で承認
【旧80項目→新7項目】

4月　ノーチャイム実施

生徒が時計を見て自主的に行動できるように。近隣への騒音防止のために。（教職員側からの提案）

通学カバンの自由化 など

磯中で改革が進んだのはなぜか… 改革推進の原動力となったもの

なぜ磯中だけ？

そもそもなぜ、磯中だけが時代に先駆けた突飛とも思えるようなことができたのか、広報誌、記念誌や当時の先生への取材から理由がいくつか見えてきました。

①1985年まで教職員の異動が少なく、家族のようになんでも言い合えるような関係が築かれていた。

②代々おおらかな校長先生が多く、先生方が自由にできた。女の先生が元気で若い先生にも平等に権限があった。※6

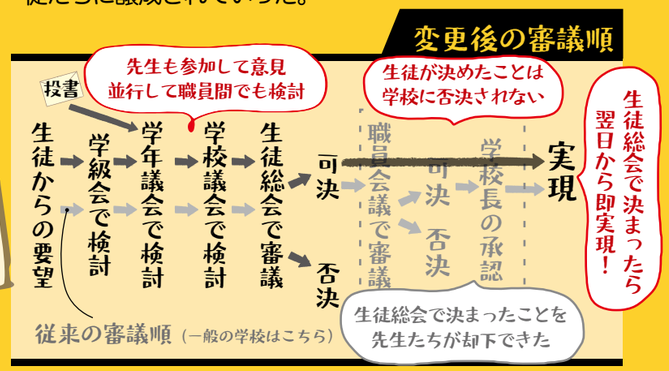
③1985年に同和研究校に指定され教職員の人権意識が高まった。

④改革当時の数年間で、粘り強くやり遂げる力を持った生徒会、生徒会担当の先生、保護者の三者が揃った。※7

「生徒の決定を教職員が翻さない」ことを決めた

生徒総会で生徒の総意でなされた議決後に、職員会議であっさり否決されたり、職員会議→学校長→場合によっては教育委員会の承認、と実現に時間がかかってしまうと、「どうせ変わらない、頑張っても無駄」と生徒を意気消沈させることになる。

水着自由化が、6月に議題に上がって翌月の水泳授業から実施できたのは、何人もの先生が学年会議に参加して一緒に議論を深めたためだった。さらに1987年以降の生徒会本部と本部顧問の先生は明確に審議順を変えた（下図）。このことで「自分たちの学校のことは自分たちで決めている」という自覚が生徒たちに醸成されていった。



もっと生徒の人権尊重！　教職員たちから次々に提案

水着の自由化実現後、人権意識が高まっていた磯中の教職員は、これまでの管理型教育を見直そうと、職員室で何時間も白熱した議論を交わした。「生徒の人権を尊重する」視点からノーチャイム、男女混合名簿、名札の廃止、男子は「君」、女子は「さん」付けを男女とも「さん」付けにすることなど、さまざまな規則改正提案が教職員側からなされ、学校の様子が変わっていった。

※2：部活ごとに雨の日に使用する場所が指定され、そこで練習を行うことになった。
※3「磯中生徒会は自分を探す旅の始まりだった」1986年生徒会長 熊谷丈 1999.7こゆるぎ
※4：この頃の様子は、同和研究紀要としてまとめられた、P14「人権感覚を育てる教育を目指してお互いに認め合い励まし合う主体的な仲間づくり（大磯中学校 昭和63年）」を参考にした。
※5：同和教育研究校：身分階層構造に基づく差別による社会問題（同和問題）解決のために、当時の文部省により1959年から研究校の指定が行われてきた。
※6：おおらかな校長として渡邊長吉第５代校長、発言力のあった女性教員として井上千鶴子先生、渡辺良子先生などが挙がった（熊沢先生、芦川先生、杉山先生、1985年卒業生他談）。ちなみに1985年の卒業アルバムを見ると、教職員37名中女性は16名と約半数。
※7：1986年生徒会本部（熊谷丈会長）他、芦川先生、井上道子さん（1992年制服検討委員会長）

7年越しの服装の自由化へ

改革の7年間（後半）1990-1993

※この当時は「制服の自由化」と言っていましたが、その後、「服装の自由化」という表記に変更されました。

当時一般的だった男女別名簿は、男子→女子の順でつくられ、「男子が先」の刷り込みをしている点などが問題（現在ではほとんどの小中学校が男女混合名簿）。磯中での導入当時の目的は、教職員が生徒を男女分けずに「一人一人を個人として考える」ことだった。

1990 1991

1990.4　男女混合名簿の実施
1990.5　服装や髪型に関する規定の改正
1991.1　防寒着の自由化
1991.4　修学旅行時の上着の自由化
1991.7　部活動などでのTシャツ着用自由化

1990年5月に改正された主な規定

- 男子のベルトの色の規定を廃止
- セーター・トレーナー着用の自由化
- 校章・名札の台布の色の自由化
- 頭髪規定の自由化
- 白ポロシャツ可
- ジャージ登校可
- 靴下の自由化

ついに…！

1991.11　「制服について」の話し合いに入る

1992.3　卒業する生徒会本部が在校生に活動継続の「メッセージ」

卒業する 生徒会本部から在校生へ活動継続のメッセージ

<前略>…私達3年生は卒業です。残念なことに結果をみとどけることはできません。そこで生徒会本部としては、次の言葉を残していきたいと思います。

1. 保護者に理解してもらおう。
2. どんどん自分達で動いていこう。
3. 積極的に意見を出してみんなの力で学校を動かしていこう。

これで終わりではありませんが、新3年生が新しく入ってくる1年生や新2年生をリードしてこの問題について取り組んでいって下さい。そして、**生徒心得（校則）の改正と自分達の生活の見直しを同時に進めていくことを忘れないで下さい。**

服装や髪型の規定が改正された直後のアンケートで保護者から出された様々な意見。1990.7「こゆるぎ」96号より

服装の自由化をめぐるアンケート

生徒アンケート
1991.12 私服登校試行前
賛成 59%　反対 41%
※「賛成」は「制服でも私服でもどちらでも良いにする」「制服を廃止する」を足した回答
※「反対」は「今のまま（制服あり）でいい」の回答

1992.11 私服登校試行後
賛成 92.6%　反対 7.4%

保護者アンケート
1990.7 最初の規定緩和後（1990.7こゆるぎより）
賛成 35%　反対 57%　どちらとも言えない・無回答 8%

1992.6 私服登校試行前
賛成 48%　反対 34%　どちらとも言えない 18%

1992.9 私服登校試行後
賛成 79%　反対 21%

自由化が始まった当初は、保護者の過半数が反対していたが、生徒・保護者・先生が学校でも家庭でも良く話し合った結果、私服登校試行後には、生徒も保護者も賛成が多数を占めるようになり、みんなが服装の自由化の実現を待ち望むようになっていった。

保護者の不安と向き合った「制服検討委員会」

制服自由化に賛否ある中、生徒、保護者、学校の三者が一体となって取り組むべき、として設置された。メンバーはPTA本部役員、PTA各委員会、校長、教頭、生徒会担当教員、の計15名。第一回の委員会で生徒会から「みんなと違うからいけないという時代は終わった、今は個性の尊重の時代です」という手紙を受け取った。しっかりした考え方に感心した委員長は「私たちも頑張ってこの検討委員会の仕事をやろうと決意した」とのちに語っている。委員会は中立的な立場で、アンケートや話し合いの場を設けたり制服のない他校の見学をするなど、多岐にわたる活動を行った。当初、保護者には私服化への抵抗やいじめへの懸念があり、委員長自身にも不安はあった。しかしその都度生徒会（本部）が生徒にアンケートをとって明確な回答をして懸念を払拭してくれた。

最終的には、保護者の賛成率も上がり、臨時生徒総会で制服の自由化が決定。このプロセスを通じて、生徒たちは「相手を思いやる」という大切なことも学んだ。（こゆるぎ135号「信頼するに足る子どもたち　元制服検討委員会委員長井上道子」／2001.7より要約）

1992

1992.4　「制服検討委員会」PTAに発足

1992.5　「大磯中学校生徒会は制服の自由化をめざす」を生徒総会で議決

1992.7　「私服登校の試行は生徒の判断に任せる」とPTA総会・職員会議で結論
生徒総会で私服登校の試行を決定

1カ月間の私服登校お試し！

1992.9　私服登校の試行実施（1カ月間）
→試行の結果「制服の自由化に継続して取り組む」ことを学校議会で決議

1992.11　制服について保護者への説明会・討論会
生徒会長による「保護者の皆様へ」というアピール文を保護者に配布

1992.12　臨時生徒総会にて3学期からの制服自由化決定

1993.1.8　制服の自由化実施

1993.3　新「生徒心得」を決定

磯中より30年遅れて国も動き出す！

⋮

2022　文部科学省は不合理な校則の見直しを促す
「生徒指導提要」の改定（P5）

私服登校試行後 生徒会本部から検討委員会へ活動継続のアピール文

私達、大磯中学校生徒678名は「制服の自由化」を心から望んでいます。これが私服登校を一ヶ月試行し、アンケートなども実施し、みんなで話し合った結論です。…（中略）私達にとってこの一ヶ月は、何か心についていたキュウクツなものが全部取り除かれたような、そんな気持ちになれた日々でした。そして「制服の自由化を是非認めて下さい」と胸を張って言えるくらい価値があり成功した私服登校期間だったと思います。…

私達はこの試行期間の中で、私服登校の良さをたくさん体験しました。ここに私達は「制服の自由化」運動をさらに強く押し進めようと決意しました。

制服検討委員会のみなさん、私達はこれからも全校生徒の力を合わせて「制服の自由化」を実現させる活動を進めていくつもりです。早急の検討・判断をよろしくお願いいたします。

大磯中学校生徒会

自ら考えて実践する。そうすれば何かが変わるし何もしなければ何も変わらない。
1991生徒会長/こゆるぎ135号

自由の裏には大きな責任がある
1993生徒会長/こゆるぎ135号

「自主自立」には常に良識と責任が必要。「自由の中に規律正しく」を自覚しよう。
1988生徒会長/こゆるぎ96号

1993.4 自由化後の生徒アンケート

先輩たちが7年かけて、やっと今のようにすごしやすくなったのだから、もっとすごしやすい学校になるように努力したい。（2年生）

生徒の努力が報われていると思う。（3年生）

生徒の力で毎年たくさんの校則がなくなり、自分達で新しい学校を作っていこうとしていてすごいと思った。（1年生）

みんなで協力すれば、すばらしい学校ができるということがわかった。（1年生）

人の意見にこんなに力があるのかと驚いた。（2年生）

（前略）…こんなに改正できたのは、先輩達の努力でもあるけど、やっぱりみんなが協力して改正してきた「証明」のように思えてびっくりした。（3年生）

改革期の生徒たち。

こゆるぎではこれまでにも何度か生徒心得改正・服装の自由化についての特集をしています。今から25年前にも、当時生徒会長だった卒業生にメッセージ文を寄せてもらうコーナーがありました。今回はその色褪せぬメッセージを紹介。また、今から40年前の、水着の自由化を決行した当時の生徒会長にメッセージをいただきました。

1999.7　こゆるぎ 129 号より

1986 年（昭和 61 年度）生徒会長　熊谷 丈　「自分を探す旅の始まりだった」

大磯中学校生徒会は、私にとって始まりの場所と記憶している。
最初の議題は些細なことだった。四月、昇降口前の投書箱に一通の投書があった。「雨の日になると運動部が、校内を使って練習するため危ないからどうにかして欲しい。」各クラスの委員長に集合をかける。クラスでの会議、学校議会を経て、この年の最初の生徒総会の議題に一通の投書が取り上げられ、議論され、採決され、改善された。
自分達の周りの景色が少しだけ動いた。「あたりまえ」のことに疑問を感じ、一石を投じ、変わった。しかも自分一人ではない、当時の本部が所属していた生徒会全体が変わったように思えた。それは私と生徒会の自信になった。
そして、生徒手帳に十三ページにわたり記された、" 生徒心得" の撤廃が大きな目標となった。
今まであたりまえだったこと、前髪が長いからといって、裁ちバサミで皆の前で髪を切られること、朝服装をチェックするために週番と呼ばれる生徒が校門前にズラリと並ぶこと、それらに疑問を感じ本当の自分たちの姿を探し始めたとき自分たちは変わることができる気がした。
この年、小さなことが少しずつ変わっていった。スクール水着が強制ではなくなり、白以外の靴下も認められた。文化祭は飲食店の数は減らすことになったが、後夜祭が復活した。その時々において、いつも始まりとなるのは投書箱であり、クラスの声だった。本部役員は楽なものである。ただそれを議題にして、会議にかけるだけでよかった。
そしてこの年の最後、生徒会規約は、生徒の手によって変わることが認められ、数年後生徒心得は一ページとなり、さらにその後制服が無くなった。
当時の生徒会会員の一人として今でも共通して言えることは、自由化を進めること、守ることが重要なのではなく、今何ができるのか、何をすべきなのかを感じとって本当の自分たちの姿を探して、少しでも前に進むことが大切なのだと思う。大磯中学校の生徒会には、どんなに小さなことでも取り上げ、変わる用意があると思う。
そして生徒の声を援護して下さる先生方もいらっしゃる。それは制服が無くなった歴史を見れば明らかだ。
そしてその一歩は、近い将来自分一人で踏み出さなければならない自分探しの旅の第一歩につながると私は信じている。

再び、このようなところに文章を寄せるにあたって、PTA の編集員の皆様から「久々に中学校へ来てみませんか？」とお誘いを受けた。はじめは気恥ずかしく、あまり気乗りはしなかった。とはいえ、景色は別格で爽快。南面はさえぎるものなく海が広がり、振り返れば陽光を浴びて鮮やかな緑の塊が構えている。
最近の生徒会活動の様子を聞いてみれば、お弁当を教室以外でも食べられるように検討中だとか。
なんたる豊かさ！
こんな景色の中、折角のお弁当を楽しみたい。それは確かに当然のことだ。制服もあり、生徒心得も何ページもあった当時の私たちには、そんな当然なことすら見えなかった。
これはきっと、これまでの選択の蓄積なのかなと思う。
親御さんたちにとっては、費用がかかったり、気配りしなくてはならなかったり、生徒や先生たちにとっては、決められたことを守るだけではなく、考えつづけねばならなかったりと、面倒で時間もかかることも沢山あったろう。そんな中、豊かであることに価値を認めた人が大勢いたからなのかなと思う。
お陰様で、久しぶりの磯中が以前と変わらず恵まれた場所であったことが、嬉しかった。

2025.10.16
生徒会室前にて

1999.12　こゆるぎ 130 号より

1994 年（平成 6 年度）生徒会長　石井奈穂子　「青春のエネルギーが磯中に改革を呼び起こした」

中学一年の二学期に磯中へ転校し、その年の三学期、制服が自由化された。革命とも言える程の大きな制度変換だったが、当時の生徒達はむしろ自然な成り行きとしてそれを受け止めていた。なぜなら、あの制服を着たがる人はほとんどいなかったし、それを無理に着る必要性は特に見当たらなかったからだ。一年後、私達は缶ジュースを自由化した。理由は冷水機が混むこと、ジュースを飲みたい人が多かったことだ。そして空缶用のごみ箱が昇降口の間に置かれた。
このように、磯中生徒会が行ってきた様々な改革は、日常のふとした疑問や欲求から生まれたものばかりだ。自分達の三年間の中学校生活をより快適にするため、その時々の生徒会会員は磯中を変えてきた。
そしてその都度、様々な反対意見が出された。ジュースを手軽に買えるようになると牛乳を飲まなくなるのではないか。制服がなくなると、服装によりいじめが起きないか。それらの意見が出され、話し合いの場が持たれ、その問題についての意識が高まってから自由化が進んだおかげで逆にそれらの意見が杞憂に終わったことも多かった。
私達はそこで反対意見の大切さを学んだと共に、同じ学校、同じ中学生でも様々な意見を持っ人がいるのだと実感した。そして何より、自由でいるために生じる責任についての自覚が生まれた。
磯中を卒業してから感じたことだが、この学校の人間はエネルギーが大きい。それはきっと、日常をより快適にしようというハングリー精神が旺盛で、またそれを実現させてきたという自信から来ているのだろう。これが磯中の伝統なのだと思う。そのエネルギーを押さえ付けず、時には方向を修正してくれる先生方もいる。自由化は、たまたまそういう形をとったに過ぎない。当時の磯中に必要だったのがたまたま自由化だったのだ。
その一つの形だけを磯中の伝統なのだとは思わないでほしい。
私が磯中に在籍して得た最も大きなものは、何か一つのことに全エネルギーを向ける楽しさだ。誰もが持っているエネルギーを、生徒会であれ部活であれ文化祭であれ、様々な形で受け止めてくれる場所でこれからもあってほしい。

2000.3　こゆるぎ131号より

1997 年（平成 9 年度）生徒会長　大久保 学　「自由と笑いと友情に彩られた日々」

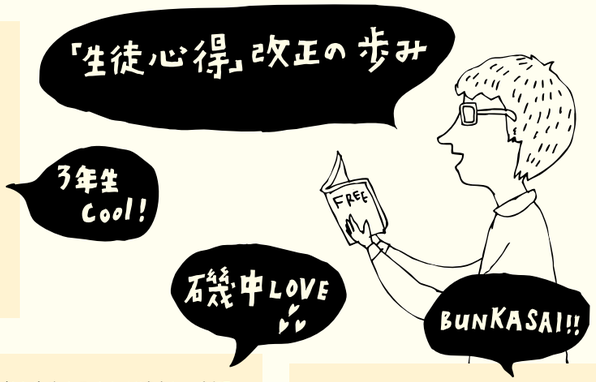
高校の同級生たちが、規制づくめの中学校生活をつまらなさそうに語っているのを聞いている時、私は自分の笑いをちゃんと隠すことが出来ているのだろうか？こんな時、私は自分の優越感を隠す事にいつも苦労している。
私の中学校生活は、自由と笑いと友情に彩られた素晴らしい日々だった。磯中は勉学に対する考え方も自由で、決して生徒に勉学を強制しなかった。自分の成績を上げる為に他人を押し退けたり、友人たちをライバル視することなく、本当の友情が芽生え、三年間でじっくりと育んでこられた。これは、今まで生きた中での最もかけがえのない財産である。
今から思うと、物の善悪もきちんと把握していないような中学生に自由を与えてもいいのだろうかという疑問もあった。自由のおいしい部分だけを食べてしまい、苦い部分が自分にはね返って来て、失敗してしまった人もいるだろう。
けれど、社会に出て初めてその苦さを味わうよりも、何度でもやり直しの出来るこの中学生時代に経験するということは、人間として大きく成長するチャンスでもあると思う。
時々、私は今でも磯中を恋しく思うことがある。選択する自由、選択したことに対する責任をとる義務、自分たち自身の手で作り上げていく校則、生徒たちの為に開放されていた職員室、それら全てが懐かしく、また、それらが現在の私をつくってくれたのだと、心から感謝している。
教育制度の見直しなども叫ばれている現在、時代の流れに沿って、そのあり方を変えてきた磯中は、時代の先端を歩んでいる。そして、これからも模索しながら、生徒たちの為の中学であり続けていって欲しいと思う。私たち卒業生は、いつまでも磯中を見守っている。

『改革期の生徒たち』を伝える授業。

2024年、卒業間近の3年生を対象に『大磯中学校のこれまでの取り組み～生徒心得改正の歩み』と題する特別授業が行われました。講師は長瀬こず彖先生。制服があった時代に磯中に着任、改革期を経て、退職した今も非常勤講師として磯中の生徒たちを見続けていらっしゃいます。
授業では、80項目もあったかつての磯中の校則や、その改革のために先生や親と向き合った先輩たちの努力、改革途中で卒業する生徒会長が後輩たちに贈った答辞などが紹介されました。生徒たちは、今まで意識してこなかった服装自由・チャイムなし・校則7つのみという環境について改めて考える機会となり、授業後アンケートでは学校への愛着が深まったなどの声が寄せられました。

授業を受けた生徒の感想

制服の自由化が実施されずに卒業していった三年生がかっこよすぎる。自分たちができなくてもこれからの生徒たちに託して卒業するとか、ほんとにすごく尊敬できるし、そんなかっこいい三年生になりたいと思いました。磯中の歴史ってほんとにすごくおもしろくて、制服のこともチャイムのこともよく考えられていて素晴らしいと思います。



高めあい★

研究主題で「ただの仲良し集団ではなく、お互いに認め合い高め合える仲間」というのが、何かしにぐっとくるように感じられた。そして、今の私の生活を今一度見直したいと考えました。その当時から生徒の諦めない心が現在まで受け継がれていて、心の伝統とは素晴らしいなと感じ、私たちも未来の中の生徒へこの伝統をつなげられるように努力していこうと考えました。

保護者も先生もみんなが協力して制服がなくなったのは、昔の人たちに感謝だし、自分も協力してより良い学校にしていきたいと思った。今回の授業でさらに磯中が好きになった。

文化祭についてで、蕎麦屋をするとき栽培や器作りから始めたと知り、とても驚くと同時に、今レベルが落ちてきていることに申し訳なさを感じた。生徒総会などの活動でも、意見を遠慮なく出せる場を作っていた当時の生徒たちがすごいなと尊敬しました。

「やりたい」を後おしする先生

文化祭で生徒が考えて自分たちで作り上げていくそのスケールが大きかったのでびっくりしました。生徒のやりたいということを後押ししてくれる先生たちは普通ではないと知り、先生や先輩に感謝したいです。

行動力

磯中の校則改正の努力もすごいし、なにより生徒だけでなく保護者・先生・さらに町の人々にも意見を求めている行動力がすさまじいなと思った。運動会や文化祭では当日生徒自身で運営できるように先生がサポートしたり生徒に取材に行かせたりなど、それくらい生徒の熱意があったんだなと思った。

生徒の個性

今、私たちが当たり前に過ごしている大磯中学校はこんなにも深い歴史があったのだと驚きを感じています。そして、大磯中学校を誇らしく思います。昔から大切にされてきた生徒の個性や意見をこれからも大事にしていきたいと思いました。

反響

磯中の改革は反響を呼びました。磯中の改革をまとめた論文（芦川先生著）が評価され大磯中学校は第43回「読売教育賞児童生徒指導部門」最優秀賞を受賞、朝日新聞天声人語への掲載（1993.3.31）、また、教育評論家 尾木直樹氏は著書『学校は再生できるか（NHKブックス1998）』の「今、元気印の学校は」の章で、「ノーチャイムと私服でのびのびと」「これこそ『生徒会の姿』」「明るい1年生の『いじめ』とのたたかい」「自由な服装」の項で11ページも割いて改革後の磯中について高く評価しています。

Koho's Voice

生徒たちは、自分たちが享受している（服装の自由など）様々な選択肢がある今の状況は、先輩たちが長い時間をかけて熟議し行動して実現したものだということや、飲食含めた盛大な文化祭もそこに深い探究があることで意味も魅力も生まれることがわかって、大きな感銘を受けていました。自由化の歴史を知ることは、真の自由の意味を知ること。たった一回で生徒の意識が変わる、身近なテーマを教材にしたこの授業、ぜひ長く続けてほしい、と強く思いました。